１年　　国語科研究授業のまとめ　（１１月６日）

１　単元名及び単元の目標

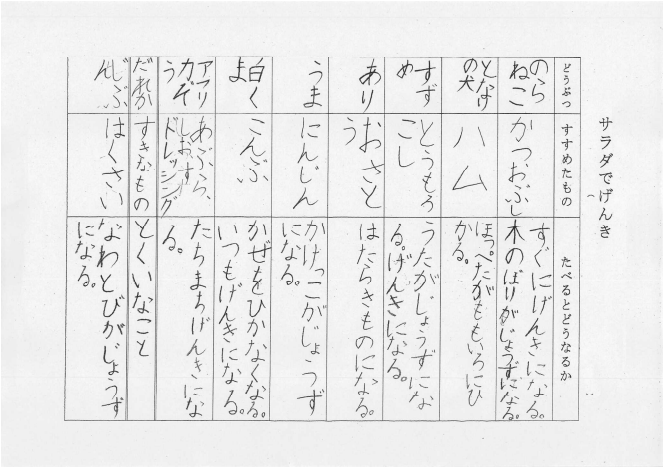
サラダでげんき（９／１３　本時）

◎　動物が登場する順序に注意し，動物がすすめたものや食べるとどうなるかに気を付けて読む。

２　本研究授業の提案について

場面の様子について，登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むために，以下の二つについて提案を行った。

(1)動物が登場する順序とそれぞれがすすめたものに着目して，物語全体の内容を読み取らせるようにした。第二次の前半に好きな場面を選んで読むという活動を取り入れた。何度もじっくりと読み込んでいたことが第二次後半につながり，場面の様子や登場人物の行動を豊かに読み取ることができたのではないかと考える。本時では，本文中にはアフリカ象がすすめたものを食べるとどうなるかが書かれていなかったが，前後の表現などを手がかりにして「たちまち元気になる」，「力強くなる」といった読み取りができていた。



【資料１　児童のワークシート】

(2) 動物たちが登場する場面を横断的に読み，動物たちの得意なことができるようになることに気付かせるようにした。場面ごとに一つ一つ区切って読み取っていくのではなく，動物たちが登場する順序，動物たちがすすめたもの，それを食べるとどうなるかという３つの観点で横断的に読み取りを行った。それにより，児童はあらすじや流れを正しくとらえ，動物たちがすすめたものは好物であり，それを食べると特技や長所が生きてくるということに気付くことができたのではないかと考える。ただし，横断的に読み進める場合，マクロ的にとらえると細かいところを見落としがちになるので，言葉をより大事に扱うことが重要であるという意見が出された。また，最後のりっちゃんへの手紙は，表現のうまさではなく，読み取った内容をしっかりととらえているかが評価の観点になるという意見が出された。

以上のことから，動物たちが登場する順序やそれぞれがすすめたものに着目させたり，場面を横断的に読み取らせたりする手だては，物語文を豊かに想像して読み取らせる上で有効であったと考える。

３　本研究授業の授業技術課題について

(1)主体的に学習に取り組ませるための単元構成を考えた。本単元では，第一次の段階で，第三次でりっちゃんにあてて手紙を書くという最終的なゴールのイメージを持たせた。第二次の前半では好きな場面の音読，後半では場面を横断的に読み取る学習活動を取り入れた。それにより，児童の学習への意欲が持続し，動物が登場する順序，動物がすすめたものや食べるとどうなるかを想像豊かに読み取ることができたと考える。第三次では，自分の好物をすすめ，それを食べると自分の特技や長所が生きてくることをおさえた内容の手紙を書くことができた。

(2)単元のねらいにせまるためにはどんなワークシートが有効であるかを考えた。ワークシートは，動物が登場する順序，動物たちがすすめたもの，それを食べるとどうなるかを書き入れる形式にし，１枚のワークシートに毎時間書きためていくようにした。また，すすめたものは好物であり，食べるとどうなるかは特技や長所であることを書き入れる欄も設け，まとめて考えることができるようにした。端には自分の好物・特技や長所を書き入れる欄を設け，第三次につなげていけるようにした。それにより，場面を横断的にとらえ，全体をまとめて考えることができたのではないかと考える。

４　今年度の研究を振り返って

今年度は，国語科の物語文の学習において，単元を貫く言語活動を意識して単元構成を工夫した授業を行った。ペア学習などの学習形態を工夫することによって子供同士が互いの考えを伝え合う場を作ったり，一人一人の考えを把握して意図的指名につなげたりすることで，豊かに読み取ることができるようになってきた。今後は，思考ツールやワークシートの活用についてさらに考え，一人一人がより深く読み取ることができるように指導していきたい。